

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 5月 17日

京都府知事 様



提出者

住 所 舞鶴市字北吸1044番地

氏 名 舞鶴市長 多々見 良三

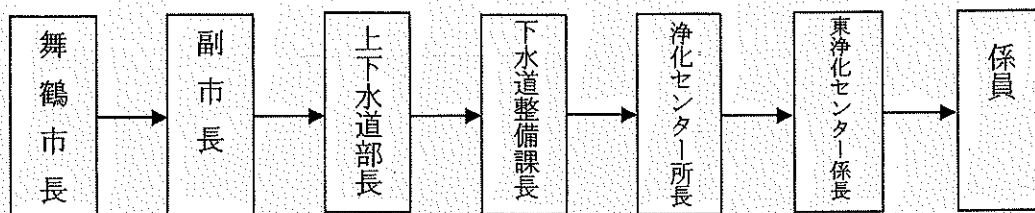
電話番号 0773-62-1999

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	舞鶴市上下水道部東浄化センター
事業場の所在地	京都府舞鶴市字市場小字竜宮732番地
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	年間下水処理量 6,230,894m ³ /年
③従業員数	20人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排出量	別紙2のとおり	
	(これまでに実施した取組) ・搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排出量	別紙2のとおり	
	(今後実施する予定の取組) ・搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙2のとおり	t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙2のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙2のとおり	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙2のとおり	
	(これまでに実施した取組) ・搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙2のとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙2のとおり	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙2のとおり	
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙2のとおり	
	(今後実施する予定の取組) —		

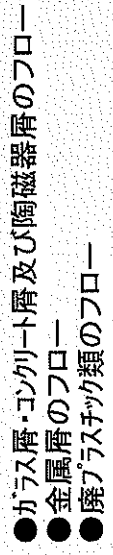
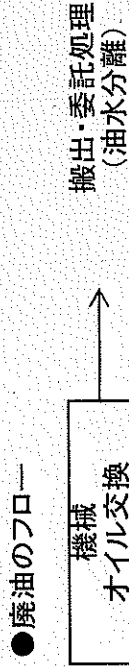
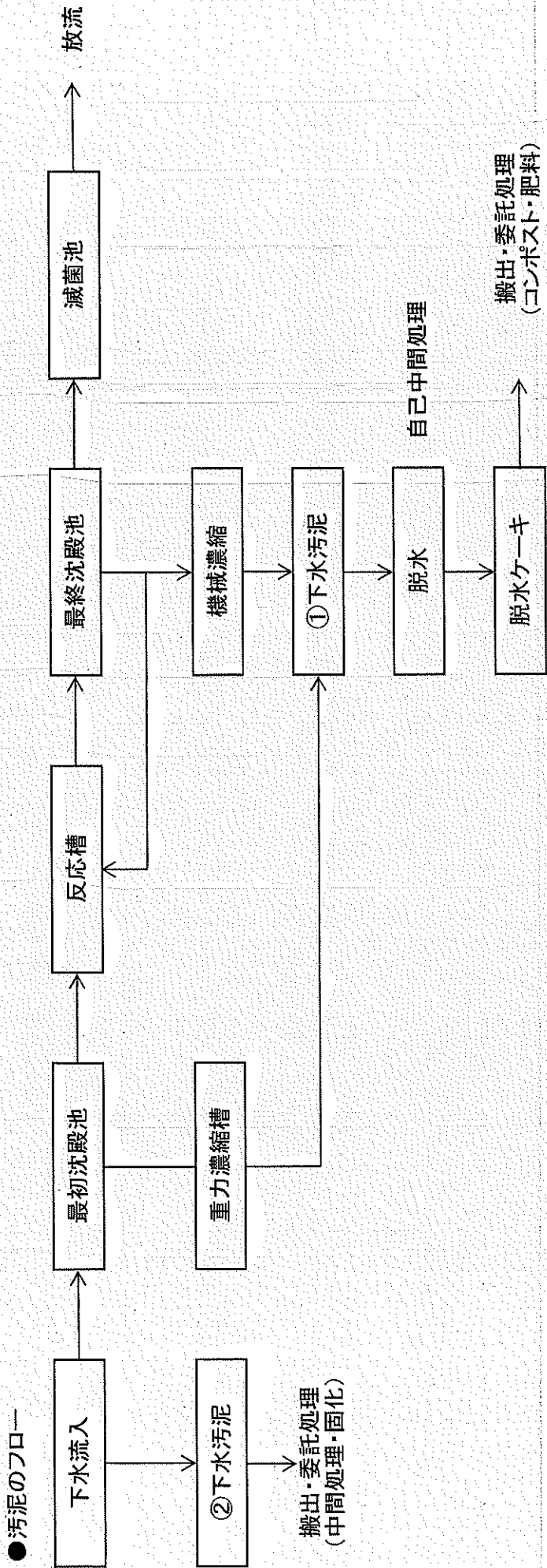
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	全処理委託量	別紙2のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙2のとおり	t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）		

		【目標】	
		産業廃棄物の種類	別紙2のとおり
		全処理委託量	別紙2のとおり t
		優良認定処理業者への 処理委託量	t t
		再生利用業者への 処理委託量	別紙2のとおり t
		認定熱回収業者への 処理委託量	t t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t t
	②計画	(今後実施する予定の取組)	
		・搬出汚泥含水率の改善 (中間処理分)	
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の処理工程



ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑
金属屑
廃プラスチック類

管理型埋め立て
管理型埋め立て
破碎

別紙2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項						
①現状	【前年度(令和3年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	排出量	31,764t	0.00t	0.018t	0.023t	0.114t
	(これまでに実施した取組) ・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	排出量	36,635t	1.70t	0.02t	0.03t	0.12t
	(今後実施する予定の取組) ・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)					
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
①現状	【前年度(令和3年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	(これまでに実施した取組) —					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	(今後実施する予定の取組) —					
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項						
①現状	【前年度(令和3年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	28,160t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
(これまでに実施した取組) ・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)						
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	32,478t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
(今後実施する予定の取組) ・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)						

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度(令和3年度)実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
(これまでに実施した取組)						
—						
【目標】						
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
(今後実施する予定の取組)						
—						

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和3年度)実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類	
		全処理委託量	3,605t	0.00t	0.018t	0.023t	0.114t
		再利用業者への処理委託量	3,605t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
(これまでに実施した取組)							
・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)							
【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・コンクリート屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類	
	全処理委託量	4,157t	1.70t	0.02t	0.03t	0.12t	
	再利用業者への処理委託量	4,157t	1.70t	0.00t	0.00t	0.00t	
(今後実施する予定の取組)							
・搬出汚泥含水率の改善(中間処理分)							

1 産業廃棄物処理計画における目標値

単位：t

排出量	昨年度の『産業廃棄物処理計画書』記載の産業廃棄物の排出の抑制に関する事項の②目標値を使用						
	汚泥	廃油	ガラス屑等	金属屑	廃プラ	合計	記載数量
	36,354,000	1,700	0.020	0.020	0.140	36,355,880	36,356
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	昨年度の『産業廃棄物処理計画書』記載の自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項の②目標値を使用						
	汚泥	廃油	ガラス屑等	金属屑	廃プラ	合計	記載数量
	32,441,000	0,000	0,000	0,000	0,000	32,441,000	32,441
全処理委託料	昨年度の『産業廃棄物処理計画書』記載の産業廃棄物の処理の委託に関する事項の②計画 全処理委託料の値を使用						
	汚泥	廃油	ガラス屑等	金属屑	廃プラ	合計	記載数量
	3,911,000	1,700	0.020	0.020	0.140	3,912,880	3,913
再利用業者への処理委託料	3						
	汚泥	廃油	ガラス屑等	金属屑	廃プラ	合計	記載数量
	3,911,000	1,700	0,000	0,000	0,000	3,912,700	3,913

2 産業廃棄物の処理状況（令和3年度実績）

産業廃棄物の種類は、別途決裁『産業廃棄物管理票交付等状況報告書』記載の産業廃棄物を記載

No.	種類	収集運搬業者	処理処分業者	処分内容	処分数量 (t)
①	下水汚泥 (自己中間処理：脱水)	安田産業	クワアズパソ	堆肥化	3,598
		舞鶴保健興業	三重中央開発	堆肥化	一般廃棄物扱い
②	東ポンプ場・主分配槽浚渫汚泥	舞鶴厚生	関西川アビカ	混練・固化	6.9
③	廃油	実績なし	実績なし	実績なし	0.000
④	ガラス・陶磁器屑	舞鶴清掃社	舞鶴清掃社	管理型埋立	0.018
⑤	金属屑	舞鶴清掃社	舞鶴清掃社	管理型埋立	0.023
⑥	廃プラスチック	舞鶴清掃社	舞鶴清掃社	破碎	0.114

3 第2面 計画の実施状況（汚泥）

3-1 下水処理汚泥は以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	数値	数値参照先
汚泥発生（排出量）	①	31,758	3-4汚泥発生量算出式による
自ら中間処理した量	④	31,758	汚泥発生量と同量
脱水汚泥（自ら中間処理した後の残さ量）	⑥	3,598	2①下水汚泥処分数量
自ら中間処理により減量した量	⑦	28,160	④-⑥
中間処理した汚泥を収集運搬・処分委託	⑩	3,598	脱水汚泥と同量
堆肥化再利用	⑫	3,598	脱水汚泥と同量

3-2 浚渫汚泥は以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	数値	数値参照先
汚泥発生（東ポンプ場道路側）	①	2.04	浚渫工事の計量証明
汚泥発生（東ポンプ場川側）	①	0	浚渫工事の計量証明
汚泥発生（主分配槽）	①	4.88	浚渫工事の計量証明
発生汚泥合計（排出量）	①	6.9	小数点第2位四捨五入
汚泥を収集運搬・処分委託	⑩	6.9	発生汚泥と同量
混練・固化後再利用	⑫	6.9	発生汚泥と同量

3-3 各項目の数量は以下のとおり

処理フロー	項目番号	記載数量	下水処理汚泥	浚渫汚泥
排出量	①	31,764	31,758	6.9
自ら中間処理した量	④	31,758	31,758	
自ら中間処理した後の残さ量	⑥	3,598	3,598	
自ら中間処理により減量した量	⑦	28,160	28,160	
直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	⑩	3,605	3,598	6.9
⑩のうち再生利用業者への処理委託量	⑫	3,605	3,598	6.9

3-4 参考：汚泥発生量算定式

令和2年度の年報から、年間脱水汚泥量と年間平均含水率、汚泥濃度から脱水処理する前の汚泥量を求める公式

$$Z = \frac{AC}{(100-X)} \quad (t) \quad \Rightarrow \quad A = \frac{Z(100-X)}{C} \quad (t)$$

Z = 脱水汚泥量 (t) 3598.23 汚泥運搬処分業務委託月払い委託の年間数量
 A = 処理汚泥量 (m3)
 C = 平均汚泥濃度 (%) 2.3 維持管理年報VI-9 汚泥処理量 (スクリュー+遠心) 濃度%
 X = 脱水汚泥含水率 (%) 79.7 維持管理年報VI-9 脱水汚泥量 (スクリュー+遠心) 含水率%

$$A = \frac{3598.2 (100 - 79.7)}{2.3} = 31,758 \quad (t)$$

4 第2面 計画の実施状況 (廃油)

4-1 廃油処理は以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	記載数量	数値参照先
廃油発生	①	0.00	不燃物・廃油集計より
収集・処分委託	⑩	0.00	廃油発生量と同量
再利用	⑫	0.00	廃油発生量と同量

5 第2面 計画の実施状況 (ガラス屑・珪クリト屑・及び陶磁器屑)

5-1 ガラス屑等は以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	記載数量	数値参照先
ガラス屑等発生	①	0.018	不燃物・廃油集計より
収集・処分委託	⑩	0.018	発生量と同量。埋立のため再利用無し。

6 第2面 計画の実施状況 (金属屑)

6-1 金属屑は以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	記載数量	数値参照先
金属屑発生	①	0.023	不燃物・廃油集計より
収集・処分委託	⑩	0.023	発生量と同量。埋立のため再利用無し。

7 第2面 計画の実施状況 (廃プラスチック)

7-1 廃プラスチックは以下のフローとなる

処理フロー	項目番号	記載数量	数値参照先
廃プラスチック発生	①	0.114	不燃物・廃油集計より
収集・処分委託	⑩	0.114	発生量と同量。埋立のため再利用無し。

1 当該事業場において現に行っている事業に関する事項

No.	項目	記載内容	参照先
①	事業の種類	下水道処理施設維持管理業	日本標準産業分類一覧参照
②	事業の規模	年間下水道処理量（令和3年度実績） 6,230,894m ³	令和3年度維持管理年報 VI-9 浄化センターの各種処理量、使用状況 総汚水流入量を使用
③	従業員数	20人	正職員 3人 嘱託 3人 舞鶴厚生 14人

2 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状【前年度 令和3年度実績】（産業廃棄物処理実績状況報告書 解説より）

産業廃棄物の種類は、別途決裁『産業廃棄物管理票交付等状況報告書』記載の産業廃棄物を記載

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・珪 リット屑・及び陶 磁器類	金属類	廃プラスチック類
排出量		31,764	0	0.018	0.023	0.114

②計画

汚泥量は、参考：汚泥発生量算定により算出。その他は前年度実績（第3位四捨五入）を計画値とする。

廃油については前年度実績がないため、一昨年度実績を採用する。

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・珪 リット屑・及び陶 磁器類	金属類	廃プラスチック類
排出量		36,635	1,700	0.02	0.03	0.12

参考：汚泥発生量算定

令和4年度の汚泥処分予算根拠から、現年度脱水処理する前の汚泥量を求める。

公式

$$Z = \frac{AC}{(100-X)} \quad (t) \quad \Rightarrow \quad A = \frac{Z(100-X)}{C} \quad (t)$$

Z = 脱水汚泥量 (t) 4,150 令和4年度予算根拠汚泥量（予算書参照）

A = 処理汚泥量 (m³)

C = 平均汚泥濃度 (%) 2.3 産業廃棄物処理実績状況報告書解説 3-4より

X = 脱水汚泥含水率 (%) 79.7 産業廃棄物処理実績状況報告書解説 3-4より

$$A = \frac{4150 (100 - 79.7)}{2.3} = 36,628 \quad (t)$$

東ポンプ場浚渫汚泥量を追加する。

前年度実績 6.9 (t)

$$\begin{aligned} \text{計画発生汚泥量} &= \text{脱水前算定汚泥量} + \text{東ポンプ場浚渫汚泥量} \\ &= 36,628 + 6.9 = 36,635 \quad (t) \end{aligned}$$

3 産業廃棄物の分別に関する事項

該当事項がないため、-を記入

4 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類・・・『産業廃棄物の排出の抑制に関する事項』に記載の種類を記入
量は、対象数量が無い場合0を記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソ リット屑・及び陶 磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0

対象数量がないため、これまでに実施した取り組みは『－』を記入

②計画

産業廃棄物の種類・・・現状に記載の種類を記入。追加がある場合は追加。
自ら再生利用を行う予定が無い場合、量の項目は全ての種類に0を記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソ リット屑・及び陶 磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0

対象数量がないため、今後実施する予定の取組は『－』を記入

5 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類・・・『産業廃棄物の排出の抑制に関する事項』に記載の種類を記入
自ら熱回収を行う産業廃棄物は無い場合、0を記入
汚泥は自ら中間処理（脱水）を実施しているが、その他は直接委託となるため、0を記入
汚泥の数量は、産業廃棄物処理実績状況報告書 解説の3-3⑦の数値を使用

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソ リット屑・及び陶 磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	28,160	0	0	0	0

これまでに実施した取り組みは『搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）』と記載

②計画

産業廃棄物の種類・・・現状に記載の種類を記入。追加がある場合は追加。

自ら熱回収を行う産業廃棄物は無いため、0を記入

汚泥は自ら中間処理（脱水）を実施しているが、その他は直接委託となるため、0を記入

汚泥の数量は、1 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 ②計画の汚泥排出量のうち、脱水処理前の汚泥量から、予算根拠の脱水汚泥量を引いた数値となる

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソリット屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	32,478	0	0	0	0	0

これまでに実施した取り組みは『搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）』と記載

自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量（汚泥）

$$\begin{aligned}
 &= \text{現年度計画脱水前汚泥量} - \text{現年度予算根拠脱水汚泥量} \\
 &= 36,628 - 4,150 \\
 &= 32,478 \quad (\text{t})
 \end{aligned}$$

6 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類・・・『産業廃棄物の排出の抑制に関する事項』に記載の種類を記入

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物は無いため、0を記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソリット屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0

これまでに実施した取り組みは、対象がないため『-』と記載

②計画

産業廃棄物の種類・・・現状に記載の種類を記入。追加がある場合は追加。

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物は無いため、0を記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・ソリット屑・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0

これまでに実施した取り組みは、対象がないため『-』と記載

7 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類・・・『産業廃棄物の排出の抑制に関する事項』に記載の種類を記入

全処理委託量・・・各項目の合計値

汚泥・・・脱水汚泥：堆肥化、浚渫汚泥：混練・固化して再利用。

実績：産業廃棄物処理計画実施状況報告書 解説3-3②の数値を記入

廃油・・・過去の処理としては再生利用しているが、今回実績がないため0

その他・・・埋立処理であるため、再利用無し。2①各項目数量を記載

優良認定処理業者・・・優良認定業者検索し、委託先が該当すれば、当該箇所に記入

認定熱回収業者・・・認定熱回収業者で検索し、委託先が該当すれば当該箇所に記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・リット層・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	全処理委託量	3,605	0.000	0.018	0.023	0.114
	優良認定処理業者への処理委託量	0	0	0	0	0
	再生利用業者への処理委託量	3,605 堆肥化・混練・固化	0	0	0	0
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0
再利用しない処理委託量	0	0	0.018	0.023	0.114	

これまでに実施した取り組みは『搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）』と記載

②計画

産業廃棄物の種類・・・『産業廃棄物の排出の抑制に関する事項』に記載の種類を記入

全処理委託量・・・各項目の合計値

汚泥・・・脱水汚泥：堆肥化、浚渫汚泥：混練・固化して再利用。

計画：当該年度予算の脱水汚泥量+前年度実績東ポンプ場浚渫汚泥量を記入

当該年度予算の脱水汚泥量 t 前年度実績東ポンプ場浚渫汚泥量 t

廃油・・・過去の処理として再生利用していた実績を記載。2②廃油排出量を記載

その他・・・埋立処理であるため、再利用無し2②各項目数量を記載

優良認定処理業者・・・優良認定業者検索し、委託予定先が該当すれば、当該箇所に記入

認定熱回収業者・・・認定熱回収業者で検索し、委託予定先が該当すれば当該箇所に記入

記載内容	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	ガラス屑・リット層・及び陶磁器類	金属類	廃プラスチック類
	全処理委託量	4,157	1.700	0.020	0.030	0.120
	優良認定処理業者への処理委託量	0	0	0	0	0
	再生利用業者への処理委託量	4,157 堆肥化・混練・固化	1.700 油水分離	0	0	0
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0
再利用しない処理委託量	0	0	0.020 埋立	0.030 埋立	0.120 埋立	

これまでに実施した取り組みは『搬出汚泥含水率の改善（中間処理分）』と記載

令和年度 不燃物集計(産業廃棄物管理票 舞鶴清掃社用綴りのマニフェストより)

単位:t

日付	ガラス屑・コンクリート屑・ 及び陶磁器屑	金属屑	廃プラスチック類
6/2	0.01	0.017	0.024
8/18		0.003	0.033
10/6	0.008		0.031
1/14			0.02
1/17		0.003	0.006
合計	0.018	0.023	0.114
記載数量	0.018	0.023	0.114
処分方法	埋立	埋立	埋立

令和3年度 廃油集計(廃油処分委託のマニフェストより)

令和3年は、廃油処分実績なし

単位:t

日付	廃油		
合計	0	0	0
記載数量	0	0	0
処分方法	再生		